

神戸には懐しい人がいる

中原 淳 一 〔画家〕

私は水が好きだ。水を一日に随分沢山飲む。好きなのは飲み水ばかりではない。水を見ることも好きだ。夏の海はまるで銭湯のようで「水」とは思えないので、夏以外の果てしなくひろがる海が好きだ。仕事に疲れ果て、目が充血して、全身に倦怠を覚えた時には、きまって水が見たくなる。と云っても、海まで行く時間を持たない私は、今、庭にプールを作ってみた。

港は海だ。だから港町に住みたいという願いがいつもあった。東京に住んでいて、時々横浜の山下公園から海を眺めていると「横浜に住みたいなあ」と若い頃にはよく思ったもので、姉にそう言ったら「横浜なら、私は神戸の方がもっと好きよ」と言ったことがある。まだ神戸を知らなかった私は、盛んに神戸に憧れたものである。その内、仕事の関係で年に何度かは関西の方に出かけるようなことがあって、大阪や京都に行っても神戸まで足をのびたし、九州に行っても神戸で途中下車した。といっても「ここは海の見える土地だ」という満足だけで、神戸で海を眺めたことはないのだけれど……。

神戸は好きな町だ。そして神戸は懐しい町。私はこの七年間病床生活を送ってしまったが、入院

中にベッドの中で「病気が直ったら神戸に行きたい」と、夕暮になって部屋の中が何となくうっすらと暗くなりかけると、必らずそう思ったものだ。それに偶然なのか、神戸には、私が生涯きつと忘れないであろう懐しい好きな人が幾人もいる。

私が満十九才で画学生であった頃、ちよっとしたチャンスで知り合った雑誌Xの編集長が「雑誌の挿絵を画いてみる気はありませんか？」と言われたことから、私はその雑誌に絵を画くようになって間もなく、当時宝塚少女歌劇の文芸部にいた平井房人氏が或る人に「僕は中原淳一の絵って好きだなア、彼はきつと伸びるよ」と言ったそうで、そんな事をまだ一度も聞いた事なかった私はすっかり嬉しくなって、まだ会ったこともない平井さんに急にものすごい親しみを感じたものだ。

それから、平井さんは上京する度に私に電話をくれて食事を一緒にしたり、私が関西に行く時には、仕事よりも平井さんに会えるのを楽しみにして二十数年続き、十才年上の平井さんを兄貴のように人生の相談相手としてきた。私の入院中に「早くよくなって関西に遊びにいらっしやい。お

互いに長生きして、昔は楽しかったなあと話し合いましよう」と書いた長い手紙を貰って三日過ぎた日の夕刊に、彼の死が報じられていた。関西と東京に離れて住んでいたので毎日会っているという訳ではなく、もう「明日から会えない」などという実感はないけれど、ガク然とするばかりだった。

二十一才の頃、神戸の大丸で私の人形展覧会をやった事があったが、その時に大丸の宣伝部に塩路さん(当時宣伝部長だったように思うが)という人がいて——今もそうかも知れない——当時青二才だった私は、理想の大人は塩路さんのような人だと思ったりした。親切で、頭が良く、知識豊富で、ピアノが上手な人で、その一つ一つが私を憧れさせたものだ。

昭和十七年の春、私が舞子ホテルに一週間程滞在したことがあったが、その時どうして私がそのホテルに泊っている事がわかったのか「ぜひ大丸にお立ち寄り下さい」というような事を裏に書いた塩路さんの名刺をホテルのメイドさんから受け取った。その時私は何をおいても大丸にとんでいかなかったのかと、今思い出す度に残念に思う。塩路さんは今も元気だろうか……。

終戦間もない頃、レインシューズのデザインの依頼を神戸の会社から受けたことがある。その時私を訪れた青年は、色浅黒く、明るい表情をした青年で、拓大の出身だと聞いたがまだ大学を出たばかりらしかった。そんなことで、私が神戸に行った時その会社のもてなしを受けたが、彼はその時の世話役になっていて、社長の令弟だと聞かされた。

その後仕事とは関係なく、筆不精の私は一度も手紙など書いたこともないのに彼はよく手紙をくれたし、私にとってはその仕事の上での相手は今まで数限りなくあるのに、彼のことは仕事には全く関係なく、何となく誰の場合とも違う特別な親しみを感じている。

彼はその後間もなく「考える所あって、わずらわしい会社などやめて……」と言って、どこか神戸の郊外だか山の上だかに鶏を何千羽も飼って養鶏をしているとたよりを貰った。そんな事を聞いて、私はますます彼が好きになった。私の病氣中にも神戸の肉などを度々送ってくれて、手紙もよく呉れた。彼は伝書鳩の飼育の達人でもあるそうで「僕は鳥が一番好きです」と言う。そして今は養鶏の方は親友に任せて、神戸の何処かで食べ物のお店を出しているというので「どんな食べ物？」と聞いたら、彼は実に明るく笑って「タコ焼ですよ」と言った。本当にタコ焼なのだろうか？

あの頃二十三、四であったとしても、今はもう四十を少し過ぎたかも知れないのに、まるで青年のような顔をして、上京の度に私を訪ねてくれる。そしてまだ彼は結婚しておらず、母上を同行して各地を旅行したり、ボソツと一人で南米まで出かけたりにして「今度先生がパリに行っている時に、僕もパリに行きたいな。一人じゃ心細いから」などと淡々と言う。そして友達を沢山持っている、その友達を大切にするには驚くばかりだ。

彼の名前は、正明君。姓は正(しょう)で名は明(あきら)。変わった名前だし、快男子として神戸では知る人ぞ知る存在ではないのかな。

□随想□

神戸 あれこれ

横塚

繁

〈絵も〉

「また、あらしに来はったん」

三宮裏の（BAR）Sのバーテン氏に、そう云われる程、よく神戸に行きます。

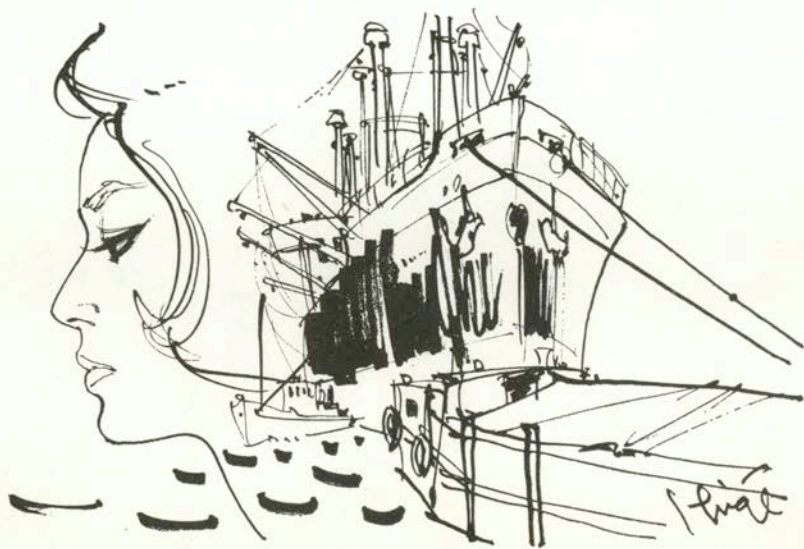
仕事の最中でも、銀座で飲んでいる時でも、あの美しい夜景や、神戸美人のことを思い出すと、たまらなく神戸に行きたくなるのです。

「よし、行ってこましたろ」

と、万難をはいしてでも旅立つのです。

このように、神戸の街は、私には不思議な魅力があるのです。

その理由の一つには、十九年間もこの街に住みついてきたからかも知れませんが、そのほとんど



が、ジャリ時代と、軍国はなやいだ時代だったの
で、不思議な魅力のほとんどは、後年、神戸をは
なれて、客人となってから得たものなのです。

私の家のあった平野界限は、シットリと静かな
町で、夕暮れになると、山寺の鐘の余韻がいつま
でもいつまでも山にこだましていました。また美
しい女学生が沢山住んでいて、ニキビ面連を大い
になやませていたのです。

蟬時雨のはげしい夏の午後など、はるばるやっ
て来た友人達と、それら美人のいる邸の門前（美
人学生はたいいてい、大きな家に住んでいました）
を行きつもどりつしたものです。今から考えると
実に涙ぐましいほどの純情さ、ウブさだったもの
です。しかし、幼稚園の時のミス、ナンパワ
ンや、小学校時代の最愛のガールフレンドの名前
や顔は、今もありありとおほえております。

戦後は、家もなくなり、用もないので、平野の
町は、ただ通り過ぎるだけです、何だかガサガ
サして、昔のような味わいがなくなった様な気が
します。あの頃の美しい女学生達も、すっかりい
いおばさんになったことでしょう。一寸ガツカリ
です。

話が後先きしますが、戦争の烈しくなりかけた
頃、六甲高羽の田村孝之介先生のアトリエへしば
らく画の勉強に通った事があります。日曜日ごと
でありましたが、ゲートル姿に絵具箱をぶら下げ
て、喜びいさんで阪急電車に乗り込んだもので
す。六甲の山の峰々が清らかに輝き、平和そのも
ので、戦の姿などどこにも見あたりませんでし
た。

ところが、戦雲急を告げ、やがて、本土空襲が
次第に激化して来た或る日、先生の疎開される荷
造りのお手伝いをして帰ったその夜半、先生も私
も焼け出されてしまいました。母校の小学校も、
中学校も焼けてしまいました。

その時、先生のアトリエにあった、製作中の二
百号近い特攻機出撃図も焼かれてしまいました。
私も、まるはだかになり、ガツクリして、両親に
は内しよで、一人中波止場から小さなボロ船に乗
って、小豆島に渡りました。そして知人の家で世
話になり、警報をはるかに聞きながら島のあちこ
ちをのんびりと、スケッチなどしていました。

やがて終戦になり、上野の美術学校入学ととも
に神戸を去りました。あのうるんだような美しい
街並みも焼けはてて見るかげもありませんでし
た。ただ、緑の山々に、雲の影がユルユル走って
いるのが眼にのこりました。

それから無我無中の時代が続きましたが、なけ
なしのお金をはたいて神戸通いを続けました。ま
っ暗だった山はだに、キラキラあかりがともり出
し、それが次第に多くなってゆきました。この頃
から神戸の不思議な魅力にとりつかれたしたので
す。

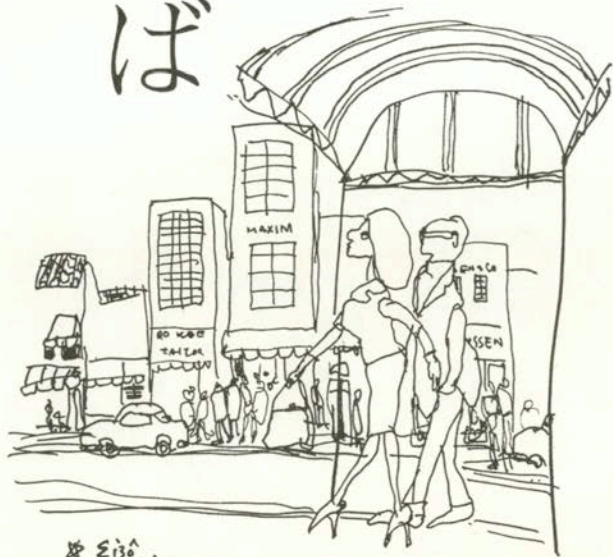
最近、神戸にゆくと、日の暮れを待ちかねて
待望の三宮に入りびたります。時折り聞える港の
汽笛をさかんに、グラスを傾けるのです。酔いが
深くなれば、錨山や、摩耶山、六甲山に登り、百
万弗の夜景に陶然となるのです。

今夜にも飛んでゆきたい気持です。

□ 随想 □

神戸に 恋人を つくらねば

富田英三 △絵も△



京都までは、春夏秋冬といわず行っているのだが、神戸で一泊、丸一日をすごしたことは、三月の下旬、とある雑誌の取材をかねて訪れるまで、まるでなかった。

三宮、トリア・ロード、生田さん、そのすべてが、私には懐しい限りだったが、しかし、何と、昔をしのぶには、あまりにも変りはてている。昔、ま

だ、神戸の街が踏切だらけの頃、私は神戸に住んでいた。卒業したのが諏訪山小学校なのだ。

神戸女学院だったかに通っていた遠縁の女性に連れられて、パウリスタでコーヒーをのんだことをおぼえている。

メリケン波止場で作った詩を、当時の文芸雑誌若草だったかに投書して、活字になったこともあ

る。少年の頃私は、おませで、天才だといわれた。

日本人入るべからずの東遊園地の金あみのそこから、ダンダラシャツを着た毛唐のタマ蹴りを珍らしげにながめてもいた。それが、サッカーというゲームだとは、長ずるに及んで知ったことである。

冬になると、湊川のどこかで、粕汁のうどんをたべたっけ。

踏切、三宮の境内、居留地の真鍮の横文字看板、そんなものが、まぶたのうらに残っている私にとって、いまの神戸は、とまどうばかりだった。そしてまた、まぶたのうらで、おぼえていた神戸とは、まるで、うらはらに、何というきたなさ！ 元町あたりの高架の両側である。

そして、やっと私は、トリア・ロードを上へあがり、山手通りから北野あたりまで行って、少年時代の私の美しい記憶をとり戻しはしたが、昔はクルマも走ってはいなかった。静かな散歩道だった。美しい記憶のとり戻しも、つかの間のよろこびだった。

すべてが変わった。

とはいえ、郷愁とは愚痴のシノニムか！

想い出とは没し去るべきものかも知れない。

Kという店のピフテキがうまいときいて行ったが、残念ながら、東京でたべる神戸ステーキの方が、…いや、よそう。それよりも、私は、そこからの眺めのすばらしさをほめたたえるべきなのかも知れぬ。

左様、十年程まえだった。一度、サンデー毎日

から特派されて、一日神戸市長になったことを、いま、ふいとおもいだした。

左様、神戸と私との、つながりは、まだある。私の姉が、いまま灘に健在で、その娘がM海運だったかに勤めている筈である。

この次は、古風な感傷などはふっとばし、東京の銀座や新宿を散歩し、遊びあるくその気持ちで、改めて、神戸へ行きたいとおもう。

東京人が、地方に旅をして、そこにノスタルジィとかローカルカラーを求めるのは、東京人の中にあるおもいあがりであろう。

今日の都会は、そのすべてがホモナイズされて行く運命にあり、それが、歴史の流れというものだ。

△神戸っ子Vの編集部で教えられたセンター街のG線という喫茶店へ入った。

東京とかわりないその都会的的平均的美しさ。

しかし、それでも、そこは、地理的に、やはり神戸だった。

どうして新幹線は大阪が終着駅なのであろう？ 大阪から、きたない電車に乗りかえて行く、その四十分の距離の中で、私は、きつと、やはり、神戸を感じるに違いない。この次に訪れる時また。そして、その神戸を意識しながら銀座や新宿と変りない喫茶店やバーを歩きまわりたいとおもう。そうだ。そして、神戸に恋人をつくらねば…。

昔、清く愉しくモダンに遊んだ女性が、どこかのビルの地下で、洋装雑貨の店をもっている…と、噂をきいたことがあるんだが…。

△漫画家V

晴れの日の

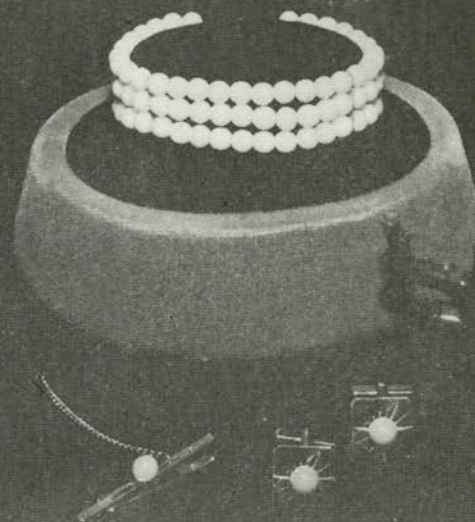
ウェディングケーキ



北欧の銘菓 ユーハイム コンフェクト

本社・工場 / 神戸熊内町1丁目 TEL22-1164・9865
熊内店 / (市立美術館東隣)
三宮店 / 神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL33-7343・0156・4314
神戸デパート店 / 長田区大橋5丁目 TEL 61-2101
甲子園店 / 国鉄甲子園口駅(北口)・芦屋店 / 国鉄芦屋駅前通・堂島
営業所 / 大阪堂島中町ビル地階・梅田店 / 大阪梅田地下センター・
栄町店 / 名古屋栄町ビル地階・千種工場 / 名古屋千種区若水町・大
丸店 / 神戸・京都・阪急店 / 神戸・大阪・三越店 / 神戸・丸栄店 /
名古屋・オリエンタル中村 / 名古屋・大阪国際空港・神戸鉄道弘済
会・丸物店 / 岐阜

さわやかな夏におとどけます
さんごとカメオのノミヤマが
白サンゴのアクセサリーの数々を



nomiyama さんごとカメオ専門店



神戸国際会館アーケード TEL (22)8161 (内線) 333

本社工場

神戸市舞合区上筒井通1/20 TEL (22) 2070

LONGINES

ロンジンをおもとのときには
神戸でもっとも豊富にロンジンの
そろったさんちかファンシータウン
美田時計店へおこし下さい



特約店
美田時計店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798
三宮店・三宮地下街 TEL33-8798

美しいあなたをよりいっそうひきたてる
ハイカラなめがねは神戸眼鏡院へどうぞ!



おしゃれ



メガネの

神戸眼鏡院

元町3丁目 33 11 2391 443
三宮店 三宮地下街 391874-5



★神戸っ子対談

写真は小野一夫氏

30年後の中小企業はどうなるか

小野 一夫 ▲日本香料薬品KK取締役社長▼

竹田 剛男 ▲関西貿易KK代表取締役▼

小野 竹田君も確か私と同じ浪速高等学校の中学部の卒業でしたね。

竹田 そうです、浪高といましてね。現在は大阪大学教育学部になっています。昔の浪高は優秀だったんだけれどもね。(笑)私は、文乙だったんです。

小野 それじゃコースまで一緒だよ、僕はそれから京大

の経済にいったんだ。

竹田 ほう！これは知らなかったですね。僕も京大の経済なんですよ。それでは中学から大学まで全部先輩なんですわね。

国際情勢に密着した経済政策を

小野 現在の経済を考えてみますと、池田政策の高度成長のひびみから、日本始まって以来という不景気を経験

しその不況がどうなるかということ。それに景気調整もかねて公債を発行していますが、それが本格的に影響して来る、そしてこの公債がどこまでいくかということなどに問題がしぼられてきます。経団連の石坂会長は、六選したときに——私はこれからの仕事として、資本の自由化に対するスケジュールをどうするか——ということだといっていました。貿易の自由化問題が一応のメドがついたとすれば、資本の自由化ということが考えられるわけで、これは日本経済がまだ経験したこともない大きな問題になりますね。それに最近是世界情勢が非常な変化を見せているわけで、貿易に大きな影響を与えている。とにかく、大変な問題を抱えているんだが、何もかにもやっていくわけにはいかない。順序なりウエイトのかけかたにしても、もっときめ細かく掘り下げて行かねばならないでしょう。

竹田 私はいつも考えているのですが、政府が予算をたてる時、景気予想をする訳ですが、いつも予想どおりにはいかない。そのなかでも非常な変化があつて影響をうけるのは、国際情勢の判断がまづいことです。ほとんど国際情勢が折り込まれていないように思うんです。これは、むづかしい問題だけれども、私はぜひ必要だと思ふんですよ。

小野 それは竹田君のいわれるとおりですね。先ほど今年の経済の問題点を列しましたが、そういう見方の他に、今年にはベトナム問題が世界経済、なかんずく日本経済に大きな影響を与えて、それがどう変わるかと、早い話がベトナム戦争によつて船の運賃がばかげた値になっていますがそれがどこまであがるものなのか、あるいは平和になると政治的にはどうなるのかとか国際問題というものに、昔の日本だとまだある程度指導力があつたんだが、今は非常にパッシブですから予測し難いんだと思うけど国際問題が非常に経済に影響を与えるということが折込まれてないみたいですね。

竹田 そして政府の予算案は年次予算だとか財政指数が

どうだとかいう面だけでね。一番大きなポイントをいかにしてつかもうかとか、いかにジャッジしていこうかとか。非常に変転きわまりないものですからうまく当るかどうか分らないですがそれを追求しようという意欲があまりないんじゃないかと感じられますね。僕ら貿易にしても、非常に現実的な、もうかるかもわからんかということですね。

小野 貿易ばかりでなしに日本の国民経済全体にひびく大きな問題ですよ。いまの糸へん(紡績)が非常に不景気になってるといいますけど、インドネシアの政変がなくて十萬こり輸出しとったらここまでひどくなつるかどうかが疑問ですわねえ。それだけでなしに暴落の原因はいろいろあるでしょうけどきっかけはインドネシア問題がターニングポイントを提供したわけですからねえ、インド・パキスタンの問題にしても、あれでインドやパキスタンへプラント輸出しとつて(笑)まいつてますよねえ(笑)それを経済の見通しの中に折込んでなかったんですからねえ。結局経済が政治に密着せないかんということ、その政治も国際政治と密着した政治でないといかん。今はそういう時代ですわね。

神戸に監督総合庁舎を作るべきだ

竹田 神戸の経済界の地盤沈下ということがかなりいわれていますがどうですかねえ。戦前戦後と比べてみした場合、神戸自身の立地条件がかなり違つており、特に戦後は全てのことにおいて中央集権的ですし一言に沈下と割り切れないものがあると思うんですがねえ。浅田会頭によれば経済界はあるがお互いの協力がなかったということになりましたが、具体的な例をあげると外人にしても昔は神戸港へ来てたのが全部飛行機になつたし、貿易面でも政治と結びつかねばならないが中央集権的に向こうへ行つてしまいましたでしょう。通産省あたりにしても東京がほとんどおさえてしまつてこちらでは全然わかんないし、僕は地盤沈下云々ということは神戸だけの責

任じやないと思うんですがねえ(笑)

小野 そのとおりですよ。戦後東京以外はどこも地盤沈下ですわ。別府とか熱海とかは上ったるかももしれんが(笑)ただその地盤沈下している中で神戸はどうなったかというやはり交通機関がいっぺんに船から飛行機に変わったという問題ですね。そこで僕は神戸に国際空港をぜひ持つ必要があるというわけです。神戸の海運、貿易の統制問題などいろんな問題もありますしね。それに現在は工場の規模が非常に大きくなってきており、神戸のよいうな土地のないところに大工業をおこせというのは無理なんですわ。それに、神戸市にお願したいのは町づくりの中で、もう少し高級住宅街に、といっても所得が多くあるとか、建物が立派だとかいうんでなしに精神的高級ですよ(笑)管理、開発型の仕事に従事するような人が気持ちよく住めるような町づくりを神戸がぜひやってほしい。京阪神を見渡したところ、そういう能力を大都市で取りながら持っているのは神戸だけです。これは神戸の地盤沈下をたて直すのに一番大切な問題だと思います

ね。何もかもやっていくというのでなしに神戸の特徴を生かしてやっていくというのは決して不可能なことじやないと思うんです。

竹田 そうですね。もう一つの問題は、今、商工会議所の移動問題があり、その中に県、市、政府、通産省関係の役所を全部統かつて入れるという話を聞いています。があれは大いに賛成ですね。たとえば輸出を取り上げてみても、我々農産物ですの、まず農林省へ行き、輸出の面では通産省、貨車やなんかを使うので運輸省に行き、それから税関が大蔵省(笑)そして突堤を使うので港務局と(笑)一つの商品を海外へ出すのにこれだけの監督官庁の許可が入用でそれだけで時間をくってしまうんです。これが一つの所でやればすくすみますがそのようなことをどこも考えてくれない(笑)地盤沈下ということも問題ですがそれ以前に総合庁舎といったような基本的なものをまずこしらえてほしいですね。

小野 それにおっしゃられるように機能的に便利なものを作れば人は集って来ますし商取引も出来るんですよ



中小企業対策をどうするか

剛 竹田 この間、市長と三十年後の田 ビジョンについていろいろお話しした時、中小企業の問題が出たんです。三十年後のビジョンの中に中小企業はどんな存在で残るだろうということですね。市長はえらい問題ですなあといっておしまいでしたが(笑)

小野 その頃はかえって安定してるんじゃないかなあ。今、中小企業問題がやかましくいわれているのは、一つは安い労働力で大企業からあふれ出した産業を養っていたものがくずれて賃金格差がなくな

ったと、それからもう一つは技術革新による第二の産業革命で、産業規模というか設備というものが急激に巨大化して革新され、これに中小企業がついて行きにくい状態に置かれてるんですね。ところが三十年後には今日の技術革新の波がおさまり安定期に来てると思うんだ。それに中小企業の労務規則にしてもある程度の限界までくればアメリカのように統一労働で統一賃金を払うというようにならされてくると思うんです。アメリカがそういう状態に落着くのに三十年かかった。ところが日本はイタリアの奇蹟と同じで、アメリカが三十年かかったものを日本では数年の間に出てしまったというようなことはありえないことです。でもそれがあるていどやって来たというのが日本の中小企業が一番えらいところやないかと思うんです。

竹田 中小企業を考える場合、過去に於いてはいわゆる低賃金労働者にささえられてきたという感じがですね。ところがこの間調べてみたんですが中小企業の方がむしろ月給の高い所が多いです。それに中小企業に良い人が来ないという時代はすでに去ったといえるんじゃないですか。たとえば飛行機にしてもジェット機だけでなしに小回りのきくプロペラ機も必要なのと同じでそれぞれの分野がちがってくる。だからアメリカでは中小企業のことをプライベートエンタープライズといいますね。

一つのことを非常に奥深くやっており、技術革新などがつきつきと進んでいくわけです。良い意味における中小企業の本質というのはむしろ大企業をリードしていくんだと、だから我々もそういう風な見方をするべきだし、そういう方向に徐々に進んでいくんじゃないですか。それに心がまえというのがだいぶ前と変わってきましたよ。松下幸之助氏の講演があった時、私が一番事業意欲に燃えつつたのは中小企業の時であんまり大きくなったらあきまへんわ”とおっしゃってました(笑)

小野 それとねえ、日本はこの企業でも、あまりにも何もかもやりすぎた。そういうふうに行うことが繁栄へ

通じ、利益の確保だということでの一つの流行になってしまいがちですねえ。それがどっちかというところ今反省期にきている。大企業が今までやってた仕事でもそれを小会社にして分けるとか、不動産部を分けるとか、今流行っています、あれは大企業自体が中小企業の良さを取り入れていかないと細胞全部が動かなくなるということもへきてると思うんですね。

竹田 ま、資本と経営の分離で、戦後の経営者というのはとにかく過当競走で、よそがやるなら自分とは一歩進んでやるということですね。そのために非常に成長率も伸びたんですが、その反面オーナープロダクションという問題が出て来た。しかしそういったことが一番スムーズにいくのは中小企業じゃないですか、結局はオーナーであり、マネージャーである。

小野 僕は、中小企業対策で当局の一番やらないかん問題は金を借すとか人を斡旋するとかいうだけでなしに、経営者の考え方とかモラルなるものを商工会議所でもやるべきだということをいってるんですがねえ。

そういう意味で、J C なんていうのは良いですねえ。J C の時のトレーニングというものは、将来の中小企業の経営者のモラルなり教養なりということで大らかなうけんをする時が来ると思うな。

竹田 中小企業というのはすべての面において経営者が先頭に立っていかなければだめだと。中小企業の第一歩は、経営者の勉強、トレーニングから、ということですね。

小野 経営者が、お得意と会われるとか、金融機関の人と会われるという以外は、同業組合だけのおつき合いであまりつき合いの場というものをもちになつていないようですねえ。やはりお互いに知識を交換し、切磋琢磨が出来るような場というものを、J C が音頭をとって作っていかれるということは非常に必要なことではないかと思えますね。今度、会議所でも会員ルームを作りまして、大いにご利用していただきたい。

竹田 そういうことが、ひいては神戸の経済界の協力態勢ができて、経済界自体が盛り上ってくるんじゃないですか。

貿易港としての神戸を考える

竹田 この間、税関から発表されたんですが、三十九年度にくらべて輸出は十七パーセント余り増えてますね。

ところが全国の伸び率は二十何パーセントが増えています。一方輸入は減っており、結局少しずつ遅れてるということですよ。

小野 ただね、ものはとりようでね、石油にしても鉄鉱石にしてもそのまま製油所なり製鉄所なりから直接送り出してらんでね、でも雑貨としてのウエイトはいぜんとして神戸は横浜と並ぶ大きな港だと思わね。

竹田 それはそうですが、雑貨でも特に綿関係はすごく減ってますよ。というのは神戸の商社の取扱い高が減ってるということ、これは考えなければいかん問題です。結局業者が政治力をもってないということですね。

小野 要するに竹田君の意見は神戸を長崎にするなということだね。まあ、竹田君なんかのような若い人に大いに発展させてもらわなくてはいかん(笑)

竹田 神戸というのはローカル色が強いんですかね。要するに旦那衆が多いんですね。資金はたくさん持っているんですね。その人の個人資産なんかたいしたものですよ。遊んでいたら世間態も悪いし、株式会社にして貿易屋の看板でも上げて小遣いもうけ的のちよっとやれば良いということやってる貿易商社というのはかなり多いですよ。だから会社は小さいがつぶれないで残っているわけです。だから、そういう業者が力を合わせて一つ盛り上げがらそうというようなことは現在のゼネレーションでは無理ですね。

小野 二代か三代でのれんがついて来たから少しのんびりしてきたんやねえ、上品になったけど(笑)

夢のかけ橋—今こそ県民が立ち上る時

小野 夢のかけ橋は、ご承知のように非常に微妙な段階でねえ、我々他の、特に東京の人達によくいわれるんですよ。岡山県や香川県では旅館に泊っても、宿の人が全部瀬戸大橋完徹とか書いたのをぶらさげたり、名刺の中に刷り込んだり、封トウにも県ぐるみで瀬戸大橋をかけたましようといってハンを押してあるそうですね。こちらは政治的には優位にすべり出したんですが、やっぱりこういう段階になると市民、県民の協力が必要になってきますね。

竹田 もっと全体から盛り上げようというものがほしいですねえ。

小野 徳島県民とお互いに手をつないで県民の間でもり上げていかないとだめですねえ。この間、ちよっと聞きましたが夢のかけ橋をかけるのに八年かかるそうですね。材料置場だけで直線四キロのところへ置かないかんそうです。砂にしてもこの辺にないんで鳥取の砂丘から運んでこない駄目で、その材料だけの集積で三年かかるというんです。今まで我々が想像してた以上の大事業ですねえ。それと橋をかけるというもう一つの重要な問題は、戦争を放棄した日本の技術界にとって非常にショッキングな問題であるということですね。この橋をかける地域の技術水準が非常に進歩するし、そういう意味でも重工業のある神戸にもってこるべきであり、もってこなければならぬ問題だというふうに考えますがね。

△文責編集部▽

伝統の
和菓子

桃山

紅葉山

栗饅頭

もなか

生菓子



神戸にそだって70年

 風月堂

元町3丁目 TEL 2412-5
さんちかスイーツタウン TEL 33455



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

精神衛生相談

有井基



「自殺しようと思うんやが、死ぬところおまへんか」
兵庫保健所―神戸市兵庫区荒田町一丁目一七四の支
関口で、老人から声をかけられた保健婦さんは、あっけ
にとられた。改めて見直すとやせさらばえて死人のよう
な風体。折りよく保健所で精神衛生相談が開かれている
のを思い出し、手を引いて四階へ。

専任の相談員の武貞昌志先生はベテラン精神科医。A
さん（七〇）を脳動脈硬化と高血圧と診断すると、さり

げなく身の上ばなしを始めた。

Aさんの話によると、サラリーマンから自営の大きな店
を起こしたが、十年ほど前からイライラして仕事の手が
つかない。長男にゆずった家業が気がかりだったが、息
子たちはかえって邪魔もの扱い。妻は高飛車にものをい
い、やさしくしてくれるのは二人のヨメだけ。さきに内
科診療で肝臓が悪く高血圧だといわれてから、家族が食
餌療法についての医師の指示を厳重に守りすぎ、そのた
め栄養失調で骨と皮になった。いっそ死んでしまおう
と、クスリを買ったのだが死に場所をさがしているう
ち、ここへ来てしまった、という。

彼は死人のように表情がなかった。うつ病だ。本当は
死にたくないのだが、自殺の危険性は十分ある。すぐ保
健婦がAさんの家庭を訪問、家族に相談室へ来てもらっ
た。そして、赤身の肉、生鮮野菜を食べさせるよう、仕
事をみつめるよう助言した。

一週間後、訪れたAさんは生色をとり戻していた。さ
らに一週間、見違えるように元気になっていた。しかし
ひき続き治療は必要だ。が家族は安心したのでらう、そ
れきり連れてこなくなった。ところが三カ月後、Aさん
が一人でやってきてイライラ、不眠、動悸、悪寒を訴え
た。血圧は二百／百八〇。武貞先生はすぐ病院と連絡を

とり、入院させた。

「早くなおったから家族が軽く考えたんですね、自殺のおそれは十分あるのに、そのこわさを知らない。入院すれば少しは考えるだろうから、家族の治療にもなるでしょう。Aさんの場合、病気でないと面倒をみてもらえない。だから治すほうがいいのか悪いのか、むづかしいケースですよ」

× × ×

精神衛生相談は毎週火・木曜日(午後二時—四時)、新築ビルへ移転する前、松本通一丁目のころから兵庫保健所で開かれてきた。ことして満十年。千人に十三人はなんらかの精神障害者(三十八年の厚生省調査)だといふ。そうした人たちの予防、早期発見、早期治療にためようという目的だ。昨年六月に改正された精神衛生法は、従来の「入院隔離主義」を廃し、地域ぐるみの精神衛生活動を柱にしているが、神戸市はすでに十年前から、その下地をつくって来たといえる。

相談にくる人の職業、年令はまちまち、兵庫区だけをとっても昨年一年間の届出精神病患者は二百三十六人。うち住宅街の四七・一%(男四一・七、女五三・二)を最高に、北神地区(二七・八)飲楽街(一五・六)工場街(二二・七)商店街(六・八)となっている。住宅街に多いのは、サラリーマンが多く、目立ちやすいこと。

健保による全額負担、会社での衛生思想の普及など、相談室を利用しやすいせいだろう。

症例も、精神病、神経症(ノイローゼ)心身症と幅広く、いちばん多いのが精神分裂病の五三%。ついでアルコール中毒の一三%。具体例を二、三あげてみよう。

Bさん(三四)は酒を飲みかけると意識がなくなるまでハシゴで飲み、暴れまわるばかりが一週間つづけて家へ帰らなかつた。意識が戻っても、その間のことは何一つ記憶にない。ただ、さめかけには何かに追われているような気持ちに襲われるという。人から入院をすすめら

れたが、精神力で直す、と禁酒。よくなっていたが、ある日また深酒で大暴れ、たまりかねて相談に来た。日ごろはおとなしくまじめな性質。数人の人を使って手広く商売をしており経理、仕入れ、金融など一手に受けている。姉二人に弟二人。初めての男の子で期待をかけられすぎ、責任ばかり負わされていた。そのハケ口をアルコールに求めたもので、武貞先生は「心因反応」と診断。まず日常生活で緊張感をとり、店に休日をつくらせ、抗酒剤を与えた。

生活環境の変化で、間もなくBさんは「もう飲みたくない」というようになった。治療はそこからだ。奥さん(二六)に来てもらって、Bさんが一人っ子を溺愛し、夫婦生活も没交渉とわかつた。奥さんはそれでなくともBさんの両親に気がねのし通し。主人に頼れず甘えもできない。不満がつつて冷淡になるのも当然だった。だがこの際、どうしても奥さんの協力がいる。「ヤキモチをやくより……」という助言がきいた。その後Bさんはすっかり健康になり、一家の春はよみがえつた。

Cさん(四五)も大店の主人。片耳が中耳炎というほかに異常はないが、高血圧が気になり測るだけでも体がふるえるという。同業者の会合どころか散髪屋もイヤという外出ぎらい。店内をうろつき、どなりちらす「むづかしいお父ちゃん」だった。

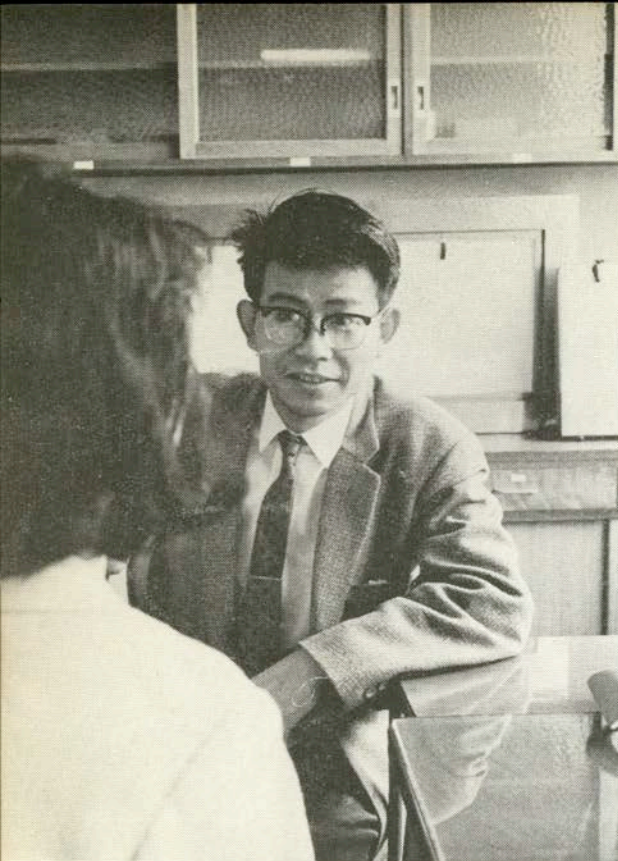
そのうち立ちくらみがし、冷や汗が出て妙に疲れやすい。内科医に通いつめたが思わしくなく、人づてに聞いて相談室へ。不自由な片耳に潜在的な劣等感をもちつづけた精神圧迫と高血圧を気にする心気亢進、つまり不安神経症だ。精神安定剤を与えると血圧百八〇。緊張感、不安感のほかは異常がない。本人には病状を説明せず、奥さん(三九)を呼んだ。Cさんが店を弟にまかせたい、といひだしてから奥さんが一切を切りまわしている。このCさんがかはみ出した状態では、Cさん自身は病気のことしか考えず、劣等感も深まるばかりだ。奥さんが「主人」の位置を返すことが先決だった。一カ月後、

奥さんの理解と協力がみのり、Cさんは正常に戻った。組合の会合にも出られるようになり、二カ月後には夫婦で初めて旅行、組合でも役をいいつけられた。

ところが、Cさんが「働くことが楽しくて仕方ない」といはいはじめたころ、こんどは奥さんが、不眠を訴えだした。自分のすることがなくなり、主人は子供のことで口をはさむ「小さな、今までと違った人間になった」という。Cさんへの期待が改まる一方、観察する時間ができてアラが目につき、不満がたまり始めたのだ。その奥さんも相談室のアドバイスで、いまでは生活に自信がつき、月一回、元気な顔をみせている。

× × ×

相談員は精神科医の武貞さんと井上文男さん、心理職の三宅玲子さんの三人。井上先生は成人病に比重をかけ、三宅さんは知能テスト、乳幼児テスト、ロールシャハ・テスト、行動観察と医療までの準備が役目。だが三人だけで予防活動はできない。それをカバーするのが梅村たつ子婦長をはじめとする保健婦さんたちのバラ



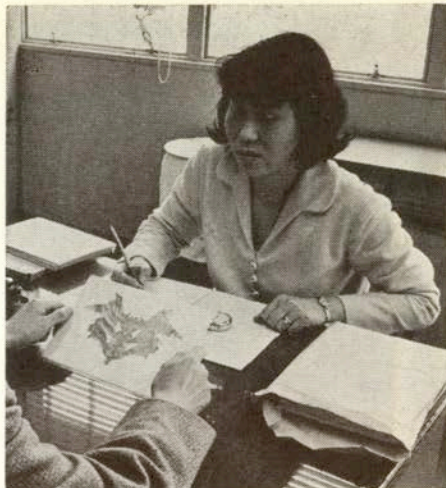
ガン・ノイローゼ、育児相談……ここはあらゆる不安のげほだ。〈相談する武貞先生〉

スのとれたチームワークだ。保健婦の勉強ぶりは目ざましい。機会あるごとに武貞先生をつかまえて「精神医学を身につけた保健婦」へ成長しようと思欲的だ。各家庭へ訪問指導する、いわば第一線。こんなケースもあった。ある婦人(四六)、Dさんでしょう。彼女は十年前、分裂病で入院、以後病院を転々としていたが次男が入院を拒否するようになった。仲が悪くて別居中の両親のうち母方に同居していたが、奇行が目立ち、食事中にもツジツマの合わぬことを口走る。母親は「この子(Dさん)を殺して自分も死のう」とまで思いつめた。Dさんの夫は戦死して息子は一人。入院させようにも恩給があるから医療保険もきかず入院させられない。しかもその恩給は父親がとってしまった。

これを聞いた保健婦Eさんは病院と民生安定所の連絡、母親の説得、措置入院の手続きと献身的に奔走、Dさんを病院へ送りこんだ。母親とDさんの息子(二二)は、やっと明るさを取り戻した。もし殺人が起こっていたら、子供の将来もメチャメチャになっていただろう。Eさんは一家全員を救ったのだ。「家に置いとけない、

だけどお金がない、入院の方法がわからないといった人が、まだまだ多いのです。その人たちのために……」梅村婦長の口調に熱がこもった。

一家が救われた例とは反対に、家族を病気にすることもある。女子高校生Fさんの場合。急に気を失なう。大声に気づいて母親がかけつけた時には、Fさんはベッドへ自力ではい上がっている。そんなことが続いた。Fさんは学校の成績も優秀で、母子家庭ながら明るく素直な性質。母に



心理テストをする三宅さん

付き添われて相談室へ来たFさんは、精密検査の結果、てんかんとわかった。ケイレンがないから母親も気づかなかったのだ。ところが、母親はショックのあまりノイローゼの状態になり、瞬時に声がかすれてこまった。

私の説明不十分なための反応です。Fさんの脳には、出産などによる外傷性の障害はなく、心配はなかったのですが、軽く考えていた私の手落ちでした。

武貞先生は、あえて「失敗例」をあげた。それだから保健婦さんに勉強してもらって、患者や家族に納得させるだけの態勢が必要だというのだ。

神戸市はこの相談室を、十年前「都道府県または指定市に設置することができる」という旧精神衛生法にしたがいで、「神戸市兵庫精神衛生相談所」としてスタートさせた。その後、ずっとおかれて兵庫県も「兵庫県精神衛生相談所」を神戸医大病院内に開設。神戸市は兵庫県保健所（滝井督三所長）を土台にして活動を続けて来た。

だが昨年改正された精神衛生法では「精神衛生相談所」の条項が消え、かわって「都道府県は」「精神衛生センター」を設置することができる（第七条第一項）と改められた。自動的に「相談所」はなくなり、中身だけが残った。同時に運営経費の三分の一が国で補助されていた

のもストップ。神戸市はその分を急ぎよ市費でカバーした。むろん、存続の構えは変わらない。

存続どころか、関係者は、より充実した「精神衛生センター」にしたい。しかし「都道府県は」やろうと思えばできるが六大都市は何の規定もない。県にしても「設置することができる」であって義務規定はない。ひろくいえば、置かなくてもいいのだ。この点について神戸市衛生局医務課では現状維持を当分続けるという。

「実情をいえば、県が主唱する「不幸な子供を産まない運動」に同調すること、たださえ不足がちな血液を確保することに全力をあげています。あまりにも問題が多いので、限られた予算のワクで何を優先するか、目先きで手いっぱいというのが正直なところでです」

と、これはまた正直な答え。だが、精神衛生の、将来のビジョンとなれば「患者を収容する病院二つをつくるより、患者をつくらないセンター一つの方が有効だ」と明快な答えがハネ返ってきた。

「もうすぐ厚生省の、精神衛生相談員を養成する研修会があって神戸から二十人近くの人が参加するはずですが、精神衛生センターに関する明確な方針は決まっていませんが、いつでも、いまの力を有効に生かせる準備だけはしておきます」

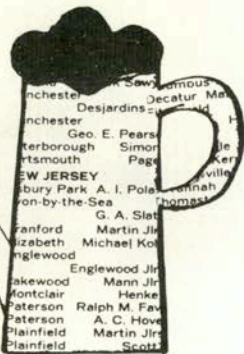
この、市当局の方針とは別個に、武貞先生は、個人的なビジョンだが一と前置きして、こういう。

「治療対策として本格的な軌道に乗せるには、各保健所にセンターを併置して特性をもたせることが考えられます。職業の適性検査や、職場の精神衛生管理の指導などのほか、実際にやれることとしては三歳児の検診を予定していますが、この相談室が将来そうした内容をそなえられるよう、私は人間としての立場でねがい続けているのです」

Summer!

ニュートークョーでビールをのめば
ヨットに乗ったさわやかさ……

381



三神ビル
屋上ビヤガーデン
(ダイエー・ビル東隣)

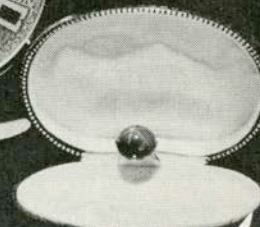
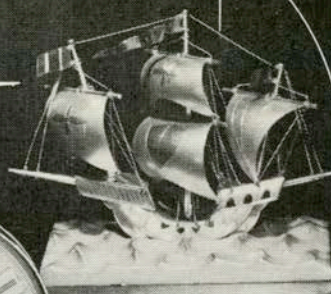
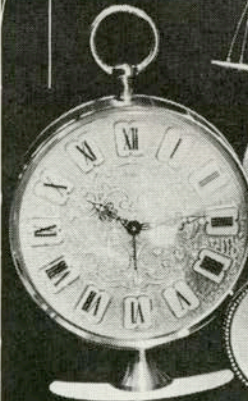
ビヤホール・レストラン

ニートー

大丸山側 <33> 1422・6457
さんちかサロントアウン店 / <39> 5069

銀製オランダ船 ¥23,000

時計 ¥12,600



スターファイア指輪 ¥100,000

宝石・貴金属・時計

仲庭

さんちかタウン (39) 4593

梅田新道 堂ビル北 (341) 0215

桜橋 毎日新聞社前 (341) 0412

新大阪ステーションストア

大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

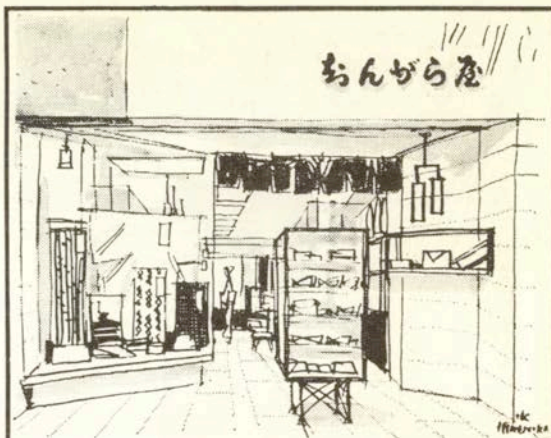


**マキシン
美容室
神戸店**

Maxine Beauty Shop

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電 ☎ 4917
西寺尾店 (文化センター内)・横浜元町店 ☎ 0312
軽井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室

初夏から夏にかけて
の美しいヘヤー・モード
はゆきとどいたサービス
シックなムードのマキシン
美容室へおこし下さい。



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

新橋店 / 新橋2丁目・電話 571-0807

銀座店 / 京阪神銀座タウン・電話 572-4847 (直)
(西銀座7丁目・並木通)